

細は資料5の研究計画書の付帯資料を参照されたい。

※BEVI: The Beliefs, Events, and Values Inventory の略称であり、ライセンスを得た大学のみが実施できる独自のオンラインプラットフォームを用いた信念や価値観の測定・分析ツール。

3-2. プロセス評価

3-2-1. 目標値の達成状況

「大学の国際展開力強化事業」の申請書に則り、2022年度の数値目標は提携校数1校、派遣学生数10名、受入学生数10名、派遣と受入の日数はそれぞれ10日程度であった。これらの目標に対する実績は、提携校数1校（シンビヨシス国際大学）、派遣および受入学生数は10名ずつで計20名、それぞれが8日間の現地演習を含む10日程度の渡航日程でプログラム実施を完了し、数値目標を達成したと言える。

学習のプロセスとして重要である現地演習の事前事後学習をオンラインで行う計画についても、提携校のインターネット環境や制約の下で想定していた Google Classroom が機能的に使用できない等の困難はあったものの、代替案として Google Space を用いるなどの工夫によりほぼ計画通りに実施できた。特にメタバース（oVice）を学習のプラットフォームとして利用した点には本学の他の留学プログラムにはない独自性が表れている。次年度以降は、メタバース、および、事前学習における JV-Campus の更なる活用を目指している。

また、GRIP プログラムの特徴のひとつは学部や研究科等の専門性、並びに学部生から博士後期課程の学生まで学年を問わないインタープロフェッショナルなチームで課題に取り組む点である。この点においては、千葉大学では看護学部、看護学研究科（博士前期課程および後期課程）、薬学部、医学部、ならびに非医療系である国際教養学部の学部生と大学院生が混在したチームを形成し、通常の授業では経験することがない編成でのプログラム参加が叶った。一方、シンビヨシス国際大学は学部生と大学院生の混在ではあったものの全員が看護学部あるいは看護学研究科の学生であったため、チームメンバーの多様性という点では当初の想定に届かない編成であった。次年度は、数値目標（提携校数2校、派遣学生数15名、受入学生数15名）の達成を目指すと共に、学生の多様性を確保し、よりプログラムの特徴を活かした学習経験を図る。

3-2-2. 協定校およびフィールドからの評価

シンビヨシス国際大学、並びに、11のフィールドのうち6組織/施設の連絡担当者より、今年度のトライアル実施までの準備および当日の運営について、良かった点と改善すべき点のフィードバックを得た。得られた回答は以下の通りである。一部、組織/施設が特定されないよう表現を加工した。

良かった点

- 見学実習を通してインドと日本の違いを互いに知ることができたので、これから社会に出ていく学生さんにとっては、働く環境を選択する視点は広がったのではないかと思います。
- 想定していたよりも質問が多く、ゆとりをもって見学のスケジュールを組み立てていましたので、時間的にはちょうどよかったと思います。
- 事前に希望内容を伺っていただきましたので、参加者の皆さんの関心に合わせた紹介ができました。見学中も皆さん大変熱心で、所定の時間をオーバーするほど質問や議論が活発に行われて、我々も大変刺激になりました。
- インドに行かれた生徒がインドの文化、経済などについて学ぶ機会と、日本に来られた生徒が日本の生活、商習慣などについて学ぶ良い機会になったと思います。
- インドの留学生を迎えるという貴重な体験ができた。
- 小グループになって回れたのであまり利用者さんの迷惑にならずに移動できた。
- 通訳できる医学生やスタッフがついていてすべて伝えるのは難しかったので助かった。
- 質疑応答が活発でみんなのモチベーションが感じられた。
- 新しい取り組みに参加したことで、既存のものではない何かを提供するために工夫する工程を楽しませていただきました。日々忙しく活動しており、地域住民の活動になかなか参加できない現状もあり、私たちも実習を受け入れたことで、交流できる良いきっかけとなりました。また、地域住民のフレンドリーな感覚を知り、異文化への受け入れという面で、地域住民の素敵な部分を見ることができ、更に尊敬の想いが強くなりました。
- 国籍や文化の違う方に対して、普段行っている活動をどう伝えていくか、考える中で、自身の日々行っているケアを見つめ直す良い機会となりました。国籍は違っても同じ気持ちで活動をおこなっていることが感じられて、良い経験になりました。
- The buddy system allowed students to become close friends and promote exchange between SIU and CU students. This led to the natural formation of a team of 20 students. (バディシステムはシンビヨシス国際大学と千葉大学の学生が交流し親しい友人になるために役立ちました。これにより 20 人の学生が自然とチームになれました。)
- I would like to express my gratitude for arranging cultural activities like wearing Yukata, preparing Japanese Tea, etc for Indian Participants that helped to introduce them to Japanese culture. (インドの学生が日本文化に親しむための浴衣やお茶などの文化的プログラムに感謝します。)
- A special thank for arranging overcoats for winter season. (冬用のコートを用意していただきとても助かりました。)
-

改善できる点

- 見学していただいた場所については、研修の目的を考慮して案内を行いました。リクエストがあれば、補足説明ができたかもしれません。こちらで説明する内容を決めてしまっていたので、ニーズに合っていたのかどうか少し心配です。
- 見学する方の人数が、前日に急に増えて、見学するグループ数を増やして対応しました。
- 千葉大学の学生さんが通訳兼世話役として同行されていましたが、同行が必要だったのかどうか少し疑問に感じました。
- 事前に伺っていた人数よりかなり多く参加されてきて会場が少々混乱いたしました。参加者の人数を早めに確定していただけますと助かります。
- 学生の通訳ボランティアの方々なのかわかりませんが、あまり関心なさそうで、スマホをずっといじっている様子は印象が良くありませんでした。我々下手ながらに英語でご説明を準備していますので、通訳ボランティアの方は最低限で結構かと思えます。
- 次回は先に生徒に予めアンケートし、学びたい・知りたい内容をもう少し絞られたらと思います。
- 事前に zoom を使って準備の打ち合わせができるとよりスムーズで中身のある対応ができると思います。
- 私たちの情報不足ではありましたが、本研修の目的があまり理解できないままの対応となってしまいました。「高齢者支援を学びにきた」と聞いていたので、高齢者のことに特化した方がよいと思っていましたが、全員が高齢者看護に興味があったわけではなかった。
- 事前に内容やスケジュールの打ち合わせや実習生の希望などわかるようでしたら、希望に沿ったことを考えられたかもしれません。内容は良かったのかなど気になっています。また、もう少し長めに時間が取れるとよりゆっくり訪問を見ていただいたり、お話ししたりすることができたかもしれません。
- We need to clearly define learning outcomes in advance. (事前に学習のアウトカムを明確にしておく必要があります。)
- There should be briefing and debriefing classroom sessions to explain and understand student learning. (学生の学びについて説明したり理解したりするために、ブリーフィングとデブリーフィングのセッションを設けた方がよいです。)
- Check list of student responsibility and documents required to be shared in advance. (学生がすべきことや提出書類のチェックリストを作成して事前に共有する必要があります。)
- Evaluation and report formats to be shared with students in advance with strict deadlines. (評価やレポートのフォーマットと明確な提出期限を事前に学生に示して